



攻めと守りの質問

ローカルジャーナリスト養成講座



「地域のオモシロイ」をみんなで発信!

伝えるために書く

伝えるために書く

ニュースは「自分ごと」から始まり記事にしていく。しかし、自分ごとであると同時に、「地域ごと」でなくてはいけない。なぜなら、記事には「読者」がいるからだ。自分だけの文章になってしまっただけでは、読者には伝わらない。「自分ごと」と「地域ごと」、それらを読者に「伝えるために書く」のが記事である。



取材とは何か

記事の内容に求められるのは正確さ。事実と異なれば、地域住民や関係者を傷つけかねない。正確な記事を書くために必要なことは裏付けとなる情報・材料集め。これが「取材」である。

- 情報は6つ(5W1H)。
①いつ(When)
②どこで(Where)
③誰が(Who)
④何を(What)
⑤なぜ(Why)
⑥どのように(How)



取材をしよう

第2回のゲストはケーブルテレビでの勤務経験を活かしローカルジャーナリストとして活躍する永見陽平さん。取材のコツや楽しさを学んだ。

- 永見さんの取材・発信をする醍醐味は次の3つ。
- ・会いたかった人に「会える」
 - ・想いを発信して「スッキリする」
 - ・出会いを通して「繋がれる」
- 自分のワクワク感を大事に楽しんでいる様子が伝わってきた。

参加者の声

最初は「モノ」に対するテーマだったが、講座で他の人と話していくうちに、「ヒト」へと変化していった。それこそが自分がワクワクするテーマだと気付けてよかった。

色んな人の意見や話を聞いて、自分の考えとは違う部分を楽しめた。

